

昭和二十八年四月
初版發行
（株）マヂカルフレンド社

東大医学部衛生看護学科の創設

福田 邦三

昭和二十八年に東大医学部の一

学科として衛生看護学科が設けら

れた。第一に、これを設けること

を發議したのは、当時治療内科の

教授であつた三沢敬義分院長であ

つた。それは分院付属として設け

られていた第二看護学校が大蔵省

の意見（東大に二つも看護学校は

要るまいという）で廃止になる代

わりに、いつそのこと四年制の看

護大学をつくりたいという話であ

つた。しかし、東大とい

う四年制大学に付属した四年制の看護大学をつくるわけに

はいかないといふので、結局のところ医学部の中に医学

科、薬学科（これはのちに薬学部として独立した）と並ん

で看護学科（仮称）をつくらうといふことに落ち着いた。

医学部の教授会の大勢は消極的であつたが、私はいろいろ

ろな人の意見を照合した結果「国策として看護婦・保健婦

のリーダーを養成する大学学部を少なくともひとつは国立

大学に設けるべきだ。それには、これがチャンスだ」とい

う判断に達し、三沢教授を助けて具体化に努めた。

教授会で論議がくり返されたが、結局「医学科の迷惑に

ならないような仕方をつくるなら反対しない」という消極

的賛成のムードで、教授会は設置を承認した——というの

が、当時私の受けた印象であつた。

名称を何とするかについて私は私案として「保健学科」

と「衛生看護学科」とを考へた。そしていちばん内容にふ

さわしい名称として、Health Care and Nursing の意味

で衛生看護学科のほうを提案して採用された。このとき、

衛生の語を「健康生活百般の世話」と解する昔の業ほくな

立場の再興を念じたが、それはどうも成功しなかつたよう

に思う。私は今、余りにも身体的・医学的および物的環境

条件に限られた慣用と語感に富む「衛生」の語の代わりに、

こうした意味をいうときには「保健」の語を用いている。

あるときアメリカ人から、どんなねらいの教育をするの

かと尋ねられたので、私は三つの H——Hort, Heal, Hand

——の高いメットを三つとも備へたナイスのリーダーを

養成したいのだと答へた。私の日本の英語だつたが、この

Hand というのは、英語では日本語の頭という意味には取

られなかつたかも知れない。

授業は教養課程を駒場で、専門課程を小石川校舎（分院

構内）で行なつたが、その内容および方法については、私

は学科主任として、各教官によつて試行錯誤の方式で、も

つとも適切なものが考案されていくことを期した。すべて

理想主義的であると同時に、彈力的に調整しながら進むと

いう原則によつた。いつてみれば、はじめの、道のおか

らない山に登るときのような気持ちであつた。

（山梨 大学学長 当時・首大医学部衛生看護学科教授）

この統をにけり
うか、濃模す
先生の著書
クローニが
P-107